薬価基準未収載

医療用具、環境などの消毒に…

外用殺菌消毒剤

（塩化ベンザルコニウム製剤）

ネオザルコニン®G消毒液0.1

８％エタノール添加０.１％塩化ベンザルコニウム液

NEOZALKONIN® G DISINFECTANT SOLUTION 0.1

１．８％エタノールの添加により、薬液の微生物汚染を防止できます。
２．使用濃度製剤なので、希釈調製が不要です。
３．着色製剤なので、誤使用を防止できます。

〔注意〕
●経口投与しないこと。
●浣腸には使用しないこと。
［要約］

詳細は、ＤＩ.欄又は製品添付文書等をご参照ください。

2003年11月作成

製造発売元
健栄製薬株式会社
大阪市中央区伏見町2丁目5番8号

外用殺菌消毒剤

ネオザルコニン®G消毒液0.1

NEOZALKONIN® G DISINFECTANT SOLUTION 0.1

塩化ベンザルコニウムは、グラム陽性菌・グラム陰性菌等に広範囲に抗微生物スペクトルを有する第四級アンモニウム塩系の殺菌消毒剤で、皮膚・粘膜、医療用具、器具、環境等の消毒に広く用いられています。しかし、抵抗性菌も多く認められるため、薬液が微生物汚染を受けることがあり、その防止のために少量のエタノールを添加することの有用性が報告されています[1,2]。
また、消毒剤に関連する医療事故防止対策として、使用用途に応じて薬液を着色することや、使用濃度の市販品又は薬剤部で調製した使用濃度液を使用することが推奨されています[3,4]。
ネオザルコニンG消毒液0.1は、有効成分として塩化ベンザルコニウムを0.1w/v%含有する使用濃度液で、薬液の微生物汚染を防止する目的でエタノールを8vol%添加し、さらに薬液を緑色に着色して識別性を向上させた製剤で、医療用具、環境等の消毒に適しています。

特性

1．広い抗微生物スペクトル

グラム陽性菌、グラム陰性菌等に広範囲に抗微生物スペクトルを有します。

2．薬液の微生物汚染防止

エタノールが8vol%添加されているので、薬液の微生物汚染を防止できます[5]。

3．使用濃度製剤

使用濃度に調製された製剤なので、院内製剤業務の省力化が可能で、計量・希釈ミスを防止できます。

4．識別性向上

誤使用による医療事故防止のために、薬液を緑色に着色し、識別性を向上させた製剤です。

5．副作用

発疹、瘙痒感等の過敏症状があらわれることがあります。

組成・性状

有効成分	塩化ベンザルコニウム0.1w/v%
添加物	エタノール、緑色201号、黄色4号（タートラジン）
性状	淡緑色澄明の液で、特異なにおいがある。 振ると泡立つ。

効能・効果

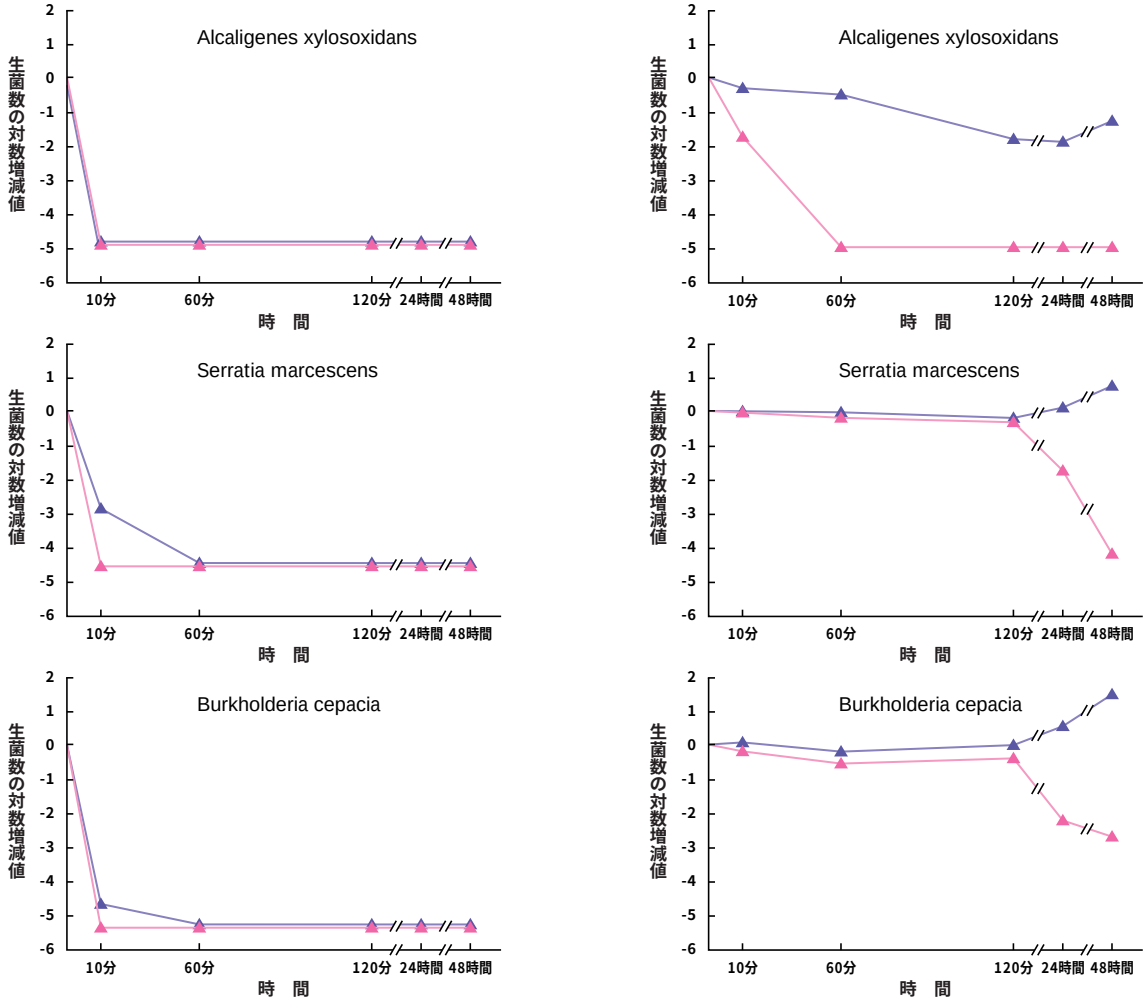
効能・効果	使用濃度
医療用具の消毒	0.1％
手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	0.05～0.1％
手指・皮膚の消毒	0.05～0.1％
手術部位（手術野）の皮膚の消毒	0.1％⇒0.2％

（塩化ベンザルコニウムとしての濃度）

殺菌効果[5)]（*in vitro*試験）

臨床分離された３種の消毒薬抵抗性菌に対する**ネオザルコニンＧ消毒液0.1**とエタノール非添加の0.1％塩化ベンザルコニウム液の殺菌効果について、ウシ血清アルブミン非添加及び添加条件下で比較した結果、**ネオザルコニンＧ消毒液0.1**はエタノール非添加の0.1％塩化ベンザルコニウム液に比べて優れた殺菌効果を示した。

(a) 0.03％ウシ血清アルブミン非添加　　**(b) 0.03％ウシ血清アルブミン添加**



●諏訪雅宣　他：新規消毒薬ネオザルコニン®Ｇの殺菌効果，医学と薬学 **50**（4）：509-511，2003．

包装

500mL、５L

減容ボトル採用によりゴミ削減

●500mL及び５Lのいずれも、折りたたみが容易な角型減容ボトルを採用していますので、使用後のゴミを減らし、廃棄処理コストが削減できます。減容後の容積は、500mLで約１/４、５Lで１/５以下になります。

優れた識別性、使用性

４面に品名・濃度表示

●500mLは識別性向上のため、品名及び濃度を４面に表示し、誤使用防止を図っています。

スクリューコック装着

●5Lは小出しに便利なスクリューコック付です。

DRUG INFORMATION

商品名	和名	ネオザルコニン® G消毒液0.1		
	洋名	NEOZALKONIN® G DISINFECTANT SOLUTION 0.1		
製造発売元		健栄製薬株式会社	承認番号	（14ＡＭ）429
日本標準商品分類番号		872616	承認年月	2002年３月
薬効分類		外用殺菌消毒剤	薬価基準収載年月	未収載
規制区分		普通薬	販売開始年月	2003年11月

組成・性状

100 mL中　塩化ベンザルコニウム0.1ｇ含有（0.1ｗ/ｖ％）。
添加物としてエタノール、緑色201号、黄色４号（タートラジン）を含有する。
淡緑色澄明の液で、特異なにおいがある。振ると泡立つ。

効能・効果
用法・用量

効能・効果	用法・用量
医療用具の消毒	塩化ベンザルコニウム0.1％溶液に10分間浸漬するか、または厳密に消毒する際は、器具を予め２％炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後塩化ベンザルコニウム0.1％溶液中で15分間煮沸する。
手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	塩化ベンザルコニウム0.05～0.1％溶液を布片で塗布・清拭するか、または噴霧する。
手指・皮膚の消毒	通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落した後、塩化ベンザルコニウム0.05～0.1％溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。 術前の手洗の場合には、５～10分間ブラッシングする。
手術部位（手術野）の皮膚の消毒	手術前局所皮膚面を塩化ベンザルコニウム0.1％溶液で約５分間洗い、その後塩化ベンザルコニウム0.2％溶液を塗布する。

使用上の注意
（使用上の注意の改訂に十分留意すること。）

1．重要な基本的注意
(1)本剤は、**濃度に注意**して使用すること。
(2)炎症又は易刺激性の部位（陰股部等）に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。

2．副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
過敏症：発疹、瘙痒感等の過敏症状（頻度不明）があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。

3．臨床検査結果に及ぼす影響
本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

4．適用上の注意
(1)人体
1)投与経路：
経口投与しないこと。浣腸には使用しないこと。
2)使用時：
ア．原液が眼に入らないように注意すること。
眼に入った場合には水でよく洗い流すこと。
イ．皮膚の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。
ウ．炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと（全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある）。
エ．密封包帯、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。

(2)その他
1)調製方法：
ア．希釈液として塩類含量の多い水又は硬水を用いる場合には、通常用いる濃度の1.5～２倍の溶液として使用すること。
イ．繊維、布（綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等）は本剤の成分である塩化ベンザルコニウムを吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。
2)使用時：
ア．血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分に洗い落してから使用すること。
イ．石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落してから使用すること。
ウ．皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。
3)器具等材質：
ア．合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。
イ．金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐蝕を防止するために塩化ベンザルコニウム0.1％溶液に0.5～1.0％の亜硝酸ナトリウムを添加すること。
ウ．皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。

薬効薬理

本剤は使用濃度において、栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、一部の真菌等には有効であるが、結核菌及び大部分のウイルスに対する効果は期待できない。

取扱い上の注意

〈貯　　法〉気密容器・室温保存
〈使用期限〉容器等に表示
〈注　　意〉開封時、容器の肩部又は底部をもち、液がとびださないように、キャップを開けること。（500 mLに記載）

包装

500 mL、５L

文献請求先

健栄製薬株式会社　学術情報部
〒541−0044　大阪市中央区伏見町２丁目５番８号　電話番号（06）6231−5626

［詳細は添付文書等をご参照ください。］

参考文献

1）諏訪雅宣　他：低濃度エタノールを添加した塩化ベンザルコニウムの殺菌効果，医学と薬学 **50**(2)：179-181，2003．
2）尾家重治　他：気管内吸引チューブ浸漬用消毒薬（ザルコニン®Ａ液0.1）の使用後の微生物汚染調査，医学と薬学 **42**(6)：989-991，1999．
3）社団法人　日本病院薬剤師会：消毒剤による医療事故防止について，1999．
4）加野弘道：消毒剤による事故は薬剤師が防ぐ－日病薬「消毒剤の取り扱い指針」の解説－，調剤と情報 **5**(9)：1353-1359，1999．
5）諏訪雅宣　他：新規消毒薬ネオザルコニン®Ｇの殺菌効果，医学と薬学 **50**(4)：509-511，2003．